

インドネシア人女性に光を一カルティニの活躍から女性の就職における現状まで ムハマド・スプハン（インドネシア）

女性の英雄 “R. A. カルティニ”

Raden Ajeng Kartini（ラーデン・アジェング・カルティニ）（1879年～1904年）は、昔から多くのインドネシア人女性に影響を与えてきた、インドネシアの女性英雄です。男女共同参画という精神を持っていた最初的女性として、カルティニはインドネシアの歴史において非常に重要な役割を果たした人でした。また、男女共同参画においても、独立前のインドネシアに大きく影響を与えるような考え方の持ち主でした。現在では、R.A.カルティニの誕生日、4月21日はインドネシアの建国記念日となっています。

このカルティニの日に向けて、大統領や知事、さらには企業の社長などは、いつものように、彼女に関するスピーチを準備したり、州の公式行事で多くの人々の前で彼女のエピソードを話したりします。女性は伝統的な民族衣装 *kebaya*（ケバヤ）を着たり、女性向けのイベントを企画したりし、式典に出席するための衣装選びに忙しくなります。またマスコミは、社会で活躍している女性たちのインタビューに奔走し、新聞や雑誌などで取り上げられる記事は、ほとんど女性に関するものとなります。学校の子どもたちは伝統的な衣服を着用し、子どもたちのファッションショーやお父さんたちだけの料理コンテストが催されるなど、女性に休息を与えるイベントが多く見受けられ、インドネシア全土にわたってカルティニの影響を強く感じられる1日となります。カルティニの日には、一年365日のうち1日くらい、女性に注目する特別な日があってもいいという強い流れも感じられます。カルティニの日に見られることは、現在でもなおカルティニが国民に愛されているということを表しています。

女性の就職における現状

カルティニが伝えた男女共同参画の精神が、100年の時を経た今でも国民の行動に影響を与えている一方で、農村地域では未だ差別を受けている女性が少なくありません。これは、インドネシア社会において、男女共同参画に対する姿勢がまだまだ不十分であることが原因だと考えられます。したがって、当然、どこかにまだ差別、疎外、搾取、あらゆる女性に対する暴力が存在するでしょう。今回は貧しい家庭出身の女性たちの就職の現状をお話します。高等学校や専門学校、大学などを卒業した女性の場合は、都市部で企業に勤めたり自営業をすることで、日常生活において男性と同等の生活ができます。しかし、きちんとした教育を受けていない人々は、そういった企業で働くことができず、彼らは、メイド、工場労働者といった、比較的低賃金の職業に就かざるをえません。安い給料では自分の子どもを養うことも難しく、子どもの教育のことまで考えていない人が多いのが現状です。低賃金の仕事ですら、簡単に見つけることができないケースもあります。そのため、インドネシアには、*Tenaga Kerja Indonesia*（略TKI：インドネシア労働者）や、*Tenaga Kerja*

Wanita（略 TKW：インドネシア人女性労働者）と呼ばれる、海外へ出稼ぎに行く労働者がたくさん存在します。インドネシア政府も、雇用対策として積極的に海外出稼ぎを推奨していますが、現実には、非合法労働者の増加や、出稼ぎ斡旋業者とのトラブルなど、さまざまな問題が横たわっています。

海外で働くインドネシア人女性が非常に非人道的に扱われるという事は、よくニュースやマスメディアなどで報道されています。このケースにおいては男性より女性が被害者になることのほうがはるかに多いのです。死亡するケースも少なくないと言えます。海外で働く女性だけではなく、国内で働く女性に関わっているケースもあります。しかし、危険性は分かっているにもかかわらず、インドネシア人女性たちはまだまだ TKW や都会のメイドとして働かれています。このような貧しい女性が置かれている状況は、まだまだたくさん問題点がありますが、生活のためや家庭の事情などで、どうしてもこうした仕事をしないとけないという現状があります。今後、地域および国内の雇用の拡大化とともに、男女共同参画および女性労働者への意識向上に向けた政策を同時に推進し、社会全体でそういった女性の問題を改善する姿勢を取るべきだと思います。